

本市における域学連携の形

都市部の大学と協力関係を構築し、学生や教員が泊まり込みで市内の地域に入り、地域住民や団体等と一緒に話合い、考え、汗を流しながら、課題やニーズを把握し、ヨソモノや研究者だからこそ気付く地域の魅力や未利用資源を掘り起し、継続性や賑わい創出に配慮した事業モデルを構築・実践しようとするものである。

大学が無く、特に高校卒業後の若年層人口の減少が顕著な本市にとって非常に重要な取り組みの一つと位置付けており、積極的な活動支援の結果、8年の間に非常にユニークで多岐にわたる成果をあげてきた。



〈本市の域学連携事業の現状整理（現在、本市で活動している大学、学生団体等）〉

龍谷大学
政策学部



小水力発電、フ
ロートソーラー発
電、都市と農村をつ
なぐ体験ツアー
の開催などに取り
組んでいる。

大森谷里山
保全隊Rijin



大森谷地域におけ
る「地域交流」の
他に農産物の商品
開発など「地域経
営」に取り組んで
いる。

龍谷大学学生団体
MEBUKI



龍谷大学政策学部
での活動後も本市
にコミットする卒
業生の組織。新た
な形の関係人口創
出に取り組んでい
る。

東京都立
大学



小規模集落竹原地
区において「淡路
島ロングトレイ
ル」と呼ばれる遊
歩道の整備を住民
と共同で取り組ん
でいる。

京都工芸
繊維大学



建築系研究室に所
属する学生を中心
に、古民家や空き
家のリノベーション
に取り組んでいる。

京都大学
エスノ3ジョウ



教育や観光、地域
活性化アイデアソ
ン、起業家教育な
ど多岐にわたるプ
ロジェクトに取り
組んでいる。

本市が目指す 域学連携の基本理念

洲本市がこれまで学生と取り組んできた成果を活かし、地域と学生それぞれが主体となって協働し相互に学び合うことで、既存資源を活用しつつ新たな価値を創造し、洲本市はもちろん全国の地域活性にも寄与します。

5つの基本目標

洲本市を1つの「大学」と感じられるような環境を生み出します。

関係人口を創出・拡大し、地域との新しい関わり方を提案します。

SDGsや、地域の中でお金を循環させる「地域内サイクル」の観点に留意した持続的な産業を創出します。

域学連携事業を通じてグローバルな視点と行動力をもった人財を育みます。

域学連携事業の成果を「すもとモデル」として全国に発信します。

基本目標を達成するための10の施策

各大学の活動の継続・発展・拡大に向けた協力・協働の強化

幅広い人材を育成するイベントの開催

域学連携事業発のソーシャルビジネスの起業

関係者間の日常的で持続的な交流促進のための場づくり

域学連携OBOGとの連携の推進

域学連携スキームを活用した、県や民間事業者等との連携

域学連携モデル地域の選定と重点的支援

洲本市域学連携事業推進協議会を核とする事業推進体制の構築

「すもとモデル」の発信と他地域との連携

事業の財源確保と積極的な活用

基本目標
理念達成のために果たすべき使命

